



島は大きなホスピタル!でもホスピ足リ〜ン

情報過疎とはなんだ?

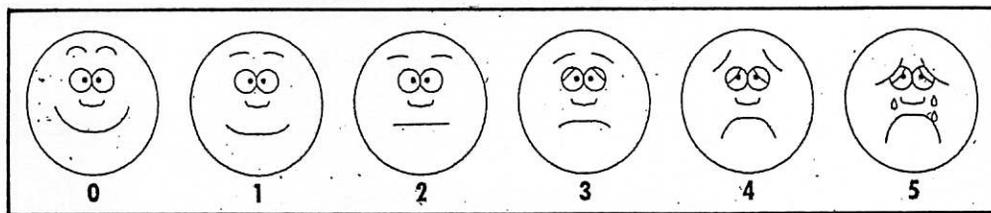
先月ある大手新聞社から取材を受けた。取材を受けたのはいつものことだが、その趣旨が、島の情報過疎が島の活性化の差し障りになっていることを検証するにあるらしいと聞けば、内心穏やかではない。情報が少ないので島は取り残されているというふうに関えるからだ。果たして

本当に足りないものは何か
 町が元気というのは、そこに住む人々が元気であるということだが、人々が元気であるためには最低限衣食住が足りていなければなるまい。そして「衣と食」は「医と職」の後押しがあって守られるものでもあるのを知らぬ者とおるまい。「足りる」の基準をどこに置くかで幅はあるもののそれでも子

社が行われているのか、そのサービスを提供する者、受ける者が泣顔なのか笑顔なのか・・・。
 むろんそのNPOの活動は町で行われている福祉のごく一部だ。しかしこのレポートを読めば弓削の地での地域密着型小規模福祉の日常がよく見える。そしてこれが一番大事な現象だが、弓削に住む高齢者はそのNPOの利用者であることを恥じない。

フェイス 0: 痛みが全くなくとても幸せ
 フェイス 1: ちょっとだけ痛い
 フェイス 2: 軽度の痛みがあり少し辛い
 フェイス 3: 中程度の痛みがあり辛い
 フェイス 4: かなりの痛み とても辛い
 フェイス 5: 耐え難い強い痛みがある

今の痛みはどれですか?



そうなのかな?

身の回り情報だらけの中で

いまわが町では光ケーブルが全戸に引き回され、インターネットにつながり気があれば世界中のあらゆる情報に接する事が出来る。もちろん新聞やテレビ、ラジオを通じて情報は入ってくる。国家権力によって情報が管理されている国と違い、すくなくとも我々は情報のつぼに放り込まれていると言っても過言ではない。それなのに情報過疎とはどういうことだ?。では言うところの情報を得れば、私達の町は活性化するのだろうか。

どもは減りつづけ、町は勢いを喪っていく。カンフル剤として情報が注入されたとして、ではどうなるか。

情報が得られたとしてもその活用がされないのであれば無きに等しい。新聞社はそのあたりを問題視していたのだろうか。

若者の活動が町を救う

ひるがえって、町には色々な情報を発信している団体がある。新聞折り込みで弓削地区の各家庭に届けられているNPO法人(非営利活動法人)のレポートも立派な情報だ。

弓削の地でどうという高齢者福

もしこれがインターネットなどの媒体を使って町外に発信されれば、世間一般がこの町の上質さを知るところとなる。

知らせることの意味

民間で出来ている住民への報告に対し、では官はどれだけのレポートを町内外に発信しているだろう。そのあたりを考えたとき、宮仕えて禄を食んでいる者は、やはり襟を正す必要があるのではないかと思うところだ。ところで、後に記事になった「情報過疎と戦う」と銘打たれた上島町をモデルにした件の記事は、ITインフラ整備の話、行

政がどうこうしたという内容ばかり。彼らの言う情報過疎とは、IT(コンピューターなどをつかった情報処理)のための社会基盤整備の遅れが町のヘタリを素だと言わんばかりの内容だった。それでは他町村より先んじてそれに取り組んできたにも関わらず力が落ち続けていく我が町の実情の説明には全くならない。

結果を出せない官なのか
 最大公約数的記事が普通である新聞記事に目くらまをたてることもないが、町内には若い人らによって町を何とかしたいという活動がある。先に書いた「ふくふくの会」や「島の会社」あるいは岩城の「ぼんぼらんど」など、みな一所懸命地域情報やその活動を発信し、定住者の呼び込みと過疎化を押しとどめようと踏ん張って居る。それに比べ、行政がらみの施策や広報活動の、なんと熱意と意気込みと実績の乏しいことか。
 光ケーブル敷設と同時に各戸に設置された告知端末。それすらいまだその持つ機能のごく一部しか活用されていない。そういう現実こそ、実は情報過疎や格差の実態であると思えて仕方がないのだが。(平山和昭)

Information



HIMARI Official Blog
 HIMARI Official Blog
 主催: 土生町商店街連合会
 問い合わせ: 08452-22-8488



映画:
「キャタピラー」
 監督若松孝二
 寺島しのぶ
 場所: シネマ尾道
 12月17日まで
 時間: 10:00~
 問い合わせ: 0848-24-8222

まだ十一月というのに大掃除の天使が降りてきた。何をやっても飽きつばい私がこの度は不思議なくらい持続する。手はじめに寝室を。タンスの上には気持ちいいほどほこりが溜まり山となつていいる。ハウスタスリ山のアレルギーの人がこの部屋に入ったら一発だろうな。そう思うと我が夫婦はたぐましいと妙に感心しつつ年代物の汚れと格闘する。

奥の方に何やら紙袋が。おそるおそる開けてみると十何冊もの家計簿。置いたことさえ忘れてる。これには笑った。即シユレッターにかける。夫は楽しそうに「ウイーンウイーン」と声を出しながら単純作業をこなしてくる。有難や。

次は大量のカセットテープ。掃除中のBGMとして流す。車の中ではCDしか聴けず断腸の思いで捨てることに。

私がひとりやっていたら家計簿を見ては当時の財政状態をなつかしみ、テープを聴いて

青木喜代子

は様々な景色が走馬燈の如くで、とても片付くまい。大きなゴミ袋を、私は今日までゴミと寝とつたのかと、複雑な思いで眺めた。ゴミの回収コスト、発生するCO2のことを考えるとぞつとする。

今までもつたないか思い出にとかで物は溜まる一方。でも年を重ねると処分する事も考えねばと、つくづく思う。それ

われの宝は

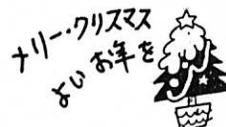
他人のゴミ

には家の中に物を持ち込まぬ事。そして吟味して必要な物だけをと自分に言い聞かせている。おっと、掃除に夢中で今夜の陶芸を忘れるところだった。今は来年の干支のうさぎをせつせと作っている。そして年末には親類縁者に「良いお年を!」とか言つて渡すのを楽しみにしている。

ちよつと待つて、これつて他人様にはゴミ?



eメール往来 ◆インターネット・ユーチューブに「石山登山」のビデオを投稿したところeメールが届いた。



石山に岩登り観光スポットを仕掛けてみたらどうですか？

(着信)

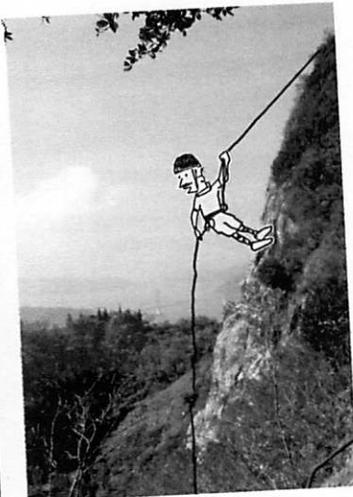
石山にはハヤブサがいるのですか。石山の崖を見て思ったのだけど、石灰岩なので滑りやすいのかな？
こっちは平山何とかという世界的なフリークライマーがいて南町田のショッピングセンターの壁で教えていたらしい。そういうカリスマの、日本唯一のクライミング入門&トレーニングセンターや素人のお遊びコースができれば、景色は良いし、ハヤブサも見れるし仕掛け次第でずいぶんはやると思うけどいかが？
こちらでは三浦半島や、房総の海の見える崖が人気スポットだそうです。(J・H)

(返信)

石山の面は石灰岩で、まあクライマーなら登れないことはないでしょうね。ムービーには映ってないけど面の下は露天掘りのあとで直径100mほどの谷になっている。つまりお椀のむこうがわとこちら側との関係で撮影してます。
「石山登山」をビデオにしてユーチューブにアップするつもりです。それには状況が映ります。露出した石灰岩のほかはバラスのような砂で崩壊しやすい。今でも年々崩れて顔の形が変わっている。ハヤブサは巣から200m以内に人が近づくと育雛中でも巣を放棄するといわれ、せつかくここで細々繁殖しているのを邪魔はしたくないなあ。
昔の泊まり小屋の残骸があるが展望台をとの話もあるようで、どうなるかわからない。せめて中腹ぐらいでとどめて欲しい気がする。山に登れば空き缶やゴミもほかすだろうし。昔、石を採掘していたころには四方からいける道があり、トンネルで谷底に通じているのをそれを整備しハイキングコースにするのもいいかな、とか。いずれにしろ現在はちよつと危ない場所が多い。生半可な整備なら怪我の素のような気がする。(平山)

【豆知識】ユーチューブ(YouTube)とは、インターネット上の動画投稿の場です。規約を守れば誰でも投稿することができます。最近では「尖閣ビデオ」が公開されて話題になりました。

◆ ◆ ◆
「触らぬ神に祟り無し」ではホントのことは解らない
◆ ◆ ◆



(着信)

そうですね、ハヤブサの巣が近ければ初春の巣づくりから夏の巣立ちまでは巣の場所をわからないような形で一定の範囲は立ち入り禁止も出てくるでしょう。そうすることにより人に対してはよりリアルな自然環境を訴えることができます。
フリークライマーは自然に気を使う人が多いので、問題は少ないと思

ますが一般の観光客はそうも行かないのでカラスなどが来ないようにごみを出さないとか必要ですね。逆にはじめから環境との調和を前面に出した場所であれば、それはそれで大きなPR点になると思います。

私の居た研究所では、道路工事によるオオタカを中心とした猛禽類への影響調査を環境アセス+αで巨額の国費をかけてさんざんやっていて、音、光、人影などの影響実態をかなり把握していました。これらは現在、それぞれ調査を発注した事務所の報告書になっているので請求すれば閲覧できます。営巣場所は特定できないようにしてありますね。

特に中心になって指導いただいている元大学教授は、別に道路事業に思い入れがあるわけではありませんが、環境省や旧来の鳥類研究所がやっているような双眼鏡と鉛筆の、遠くからの観察中心では実際のことはわからない。触らぬ神にたかりなしという結論しか得られない。これでは本当の希少種の保護はできないという先進的なEPA(アメリカ環境保護庁)の考え方の実践者で、世の中の考え方を変えるいい機会とばかり、多くの道路事業の調査を指導されています。
調査をする人間はすべからず木に登れて雛の体重をすばやく計り、元に戻す技術を要求され、またご本人も70才を超えているのに現役に木に登り、調査員を集めてトレーニングもやっています。(J・H)

煩惱ライフ

ともよ 安藤朋生 茨城県



山の木々が美しい色に変わり始めて眺めているともうその隣には冬の気配が・・・。

1年が過ぎるのは早いものです。考えてみると不思議ですよね「季節を感じる」なんて。

時計のない時代には太陽や月の動きで季節を知り、種を蒔く時期を把握した生活をしてきたなんて、本当に感慨深いと思うのです。そして昔々の人達の「生きる」と今現在の「生きる」事への意味も少し変わってきたように思います。

生きる事に目一杯な私達でも少しばかりの夢や希望は失ってしまいたくない!とは想いませ

んか?大なり小なり心に想う”夢”。

安藤にも僅かばかり夢がございます。小石くらいの夢がゴロゴロ、目の前を通り過ぎてはまたゴロゴロと。夢は意外と転がります。

茨城から出たことのない私には茨城以外どこも別世界。ちょっと隣の栃木県さえ違う雰囲気味が味わえる私は結構安上がりに出てます。ならば、いっそ、ビュ〜ンと遠くの島々に住んでしまったらこれはどんな事になるのか?!

若干の不安はあるものの、多分毎日素直に感謝しながら深く眠れる健全な魂が宿ること間違い無しでしょう。1日が終わる

黄昏、波音を聞きながら星空を眺める生活がどれだけ心を潤すか。ロハスだエコだと言うけれど、これが元来のライフではないだろうかと思うのです。

しかし夢と現実のギャップに打ちのめされ、沖縄やその周辺の島々に移り住んだ人達の約8割は生活に馴染めず戻すケースも多いといえます。理由のひとつには今までの生活水準を保つことが難しかったからだ。

石のお金が物が買えた時代もあったはずなのに。物々交換で生活出来る国もあるっていうのに。何にそんなにお金が掛かっているのか理解に苦しみます。でもまあ人の欲は限りないとも言うものね。

島に限らず他所で暮らすということは、それだけで刺激的です。そうは言うものの、自分を解放することが出来なかつたらむづかしい。

島であれどこであれ、何が必要で何が足りないか。日々に立ち向かう根性。ぎちぎちの心を解放する術を身につける努力。少々不便な生活を楽しめる心の余裕。これらを養わなかつたら今と違う生活を、なんて考えても無理というもの。

島に住んで島を満喫したい。空が青くなくてもいい。海が青くなくてもいい。島の空気を吸って心も体も潤したい。静電気よさらば!煩惱よ、さ〜ら〜へば〜!

小石くらいの私の夢、その砂浜で待っていて〜!

